


















《第105回景況アンケート調査(平成28年9月調査)》

とよしん景況天気図

業種	調査時期	現 状	見通し
		28/7~28/9	28/10~28/12
総 合			
製 造 業			
卸 売 業			
小 売 業			
サービス業			
建 設 業			

《記号の意味》

D I 数値	30 以上	良 い	
D I 数値	10 以上 ~ 30 未満	やや良い	
D I 数値	▲10 未満 ~ 10 未満	普 通	
D I 数値	▲10 以下 ~ ▲30 未満	やや悪い	
D I 数値	▲30 以下	悪 い	

《D I の意味》

D I とは、ディフュージョン・インデックス (拡散指数) の略で、増加 (良い) 企業の割合から減少 (悪い) 企業の割合を差し引いた値を指数化したものをいいます。

# 要 旨

『当地区の景況は、一部に弱い動きがみられており、改善の足取りは緩やかなものになっている。』

当期（7～9月）のDIは、業況+5.2（前期比▲2.3ポイント）、売上+6.6（同▲0.4ポイント）、収益+1.5（同▲0.9ポイント）と、全てのDIが前期比低下している。

一方、来期（10～12月）については、業況+7.9（当期比+2.7ポイント）、売上+10.4（同+3.8ポイント）、収益+5.9（同+4.4ポイント）と、全てのDIで当期比改善が見込まれている。

## 業況DI

最近3カ月の業況DIは、総合+5.2と前期比▲2.3ポイント低下した。業種別では、製造業+11.6（前期比▲0.4ポイント）、卸売業+7.0（同▲1.6ポイント）、小売業+5.3（同▲0.2ポイント）、サービス業+3.0（同+2.0ポイント）、建設業▲2.2（同▲13.0ポイント）と、サービス業を除き前期比低下している。

先行き（10～12月）について、総合では+7.9と当期比+2.7ポイントの改善が見込まれている。業種別では製造業+15.0（当期比+3.4ポイント）、卸売業+1.8（同▲5.2ポイント）、小売業+3.5（同▲1.8ポイント）、サービス業+5.9（同+2.9ポイント）、建設業+5.4（同+7.6ポイント）と、製造業、サービス業、建設業で当期比改善が見込まれている。

## 売上DI

最近3カ月の売上DIは、総合+6.6と前期比▲0.4ポイント低下した。業種別では、製造業+12.2（前期比+2.3ポイント）、卸売業+5.3（同+5.3ポイント）、小売業+10.5（同+8.7ポイント）、サービス業+12.9（同+10.0ポイント）、建設業+1.1（同▲15.0ポイント）と、建設業の大幅低下を除き前期比改善している。

先行き（10～12月）について、総合では+10.4と当期比+3.8ポイントの改善が見込まれている。業種別では、製造業+18.4（当期比+6.2ポイント）、卸売業+12.3（同+7.0ポイント）、小売業+10.5（同±0ポイント）、サービス業+6.9（同▲6.0ポイント）、建設業+6.5（同+5.4ポイント）と、製造業、卸売業、建設業で当期比改善が見込まれている。

## 収益DI

最近3カ月の収益DIは、総合+1.5と前期比▲0.9ポイント低下した。業種別では、製造業+3.4（前期比+2.0ポイント）、卸売業+1.8（同+1.8ポイント）、小売業▲1.8（同▲1.8ポイント）、サービス業+7.9（同+1.2ポイント）、建設業▲1.1（同▲1.1ポイント）と、小売業、建設業で前期比低下している。

先行き（10～12月）について、総合では+5.9と当期比+4.4ポイントの改善が見込まれている。業種別では、製造業+7.5（当期比+4.1ポイント）、卸売業+8.8（同+7.0ポイント）、小売業+3.5（同+5.3ポイント）、サービス業+5.0（同▲2.9ポイント）、建設業+2.2（同+3.3ポイント）と、サービス業を除き当期比改善が見込まれている。

# とよしん景況調査

## 《調査要領》

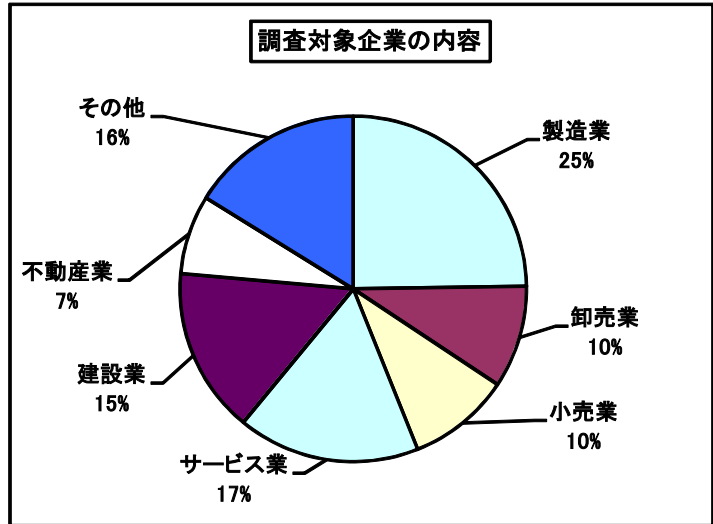
**調査対象時期** 平成28年 7月～9月 実績  
 平成28年 10月～12月 見通し

**調査方法** 聞き取りアンケート調査

**調査対象企業** 当金庫取引先 594社

### 分析方法

各質問項目で「増加(上昇)」したとする企業が全体に占める構成比と、「減少(下降)」したとする企業の構成比との差(DI・判断指数)を中心に分析しています。



### DIの推移

<業況>

(数値はDI数値)

業種	時期	平成27年	10~12月	平成28年	4~6月	7~9月		10~12月見通し	
		7~9月		1~3月					
総合		1.7	9.5	10.9	7.5	5.2	↓	7.9	↑
製造業		3.4	9.9	13.1	12.0	11.6	↓	15.0	↑
卸売業		▲5.5	9.1	1.6	8.6	7.0	↓	1.8	↓
小売業		▲13.6	5.7	11.1	5.5	5.3	↓	3.5	↓
サービス業		4.1	12.2	12.0	1.0	3.0	↑	5.9	↑
建設業		7.1	8.2	14.3	10.8	▲2.2	↓	5.4	↑

<売上>

(数値はDI数値)

業種	時期	平成27年	10~12月	平成28年	4~6月	7~9月		10~12月見通し	
		7~9月		1~3月					
総合		4.8	15.4	14.1	7.0	6.6	↓	10.4	↑
製造業		9.6	22.4	18.6	9.9	12.2	↑	18.4	↑
卸売業		▲1.8	12.7	0.0	0.0	5.3	↑	12.3	↑
小売業		▲18.6	9.4	13.0	1.8	10.5	↑	10.5	→
サービス業		7.1	18.4	19.0	2.9	12.9	↑	6.9	↓
建設業		9.1	13.4	18.7	16.1	1.1	↓	6.5	↑

<収益>

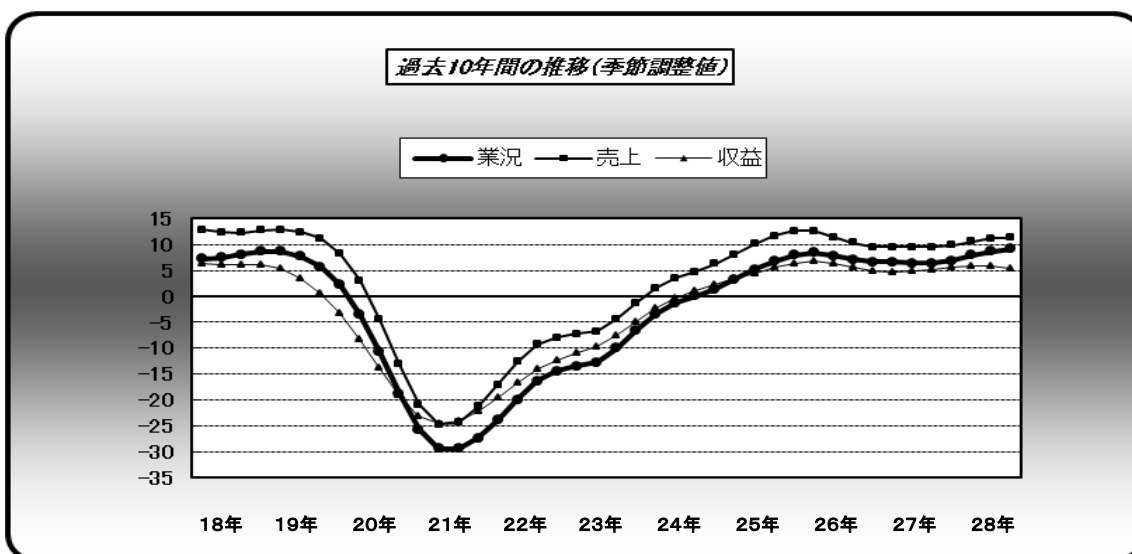
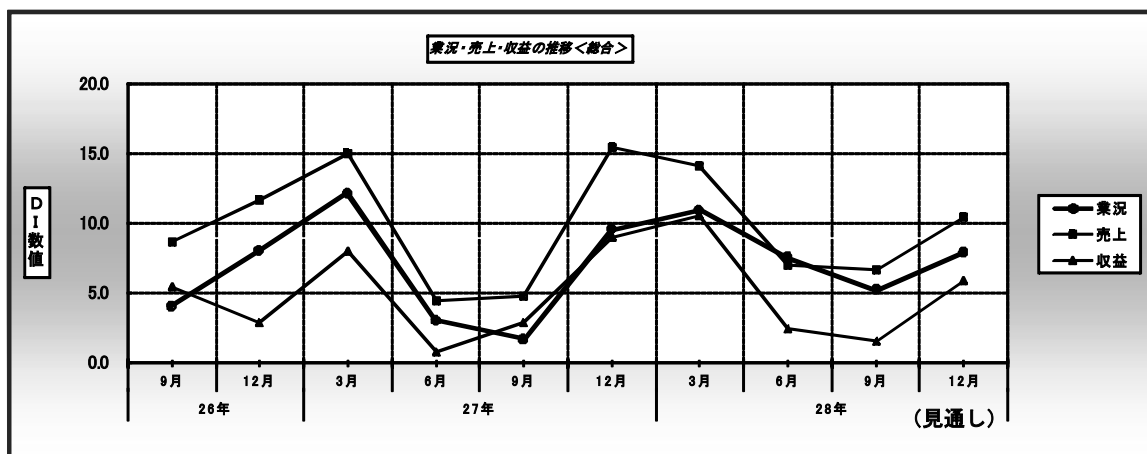
(数値はDI数値)

業種	時期	平成27年	10~12月	平成28年	4~6月	7~9月		10~12月見通し	
		7~9月		1~3月					
総合		2.9	9.0	10.5	2.4	1.5	↓	5.9	↑
製造業		8.9	13.2	15.2	1.4	3.4	↑	7.5	↑
卸売業		▲3.6	10.9	0.0	0.0	1.8	↑	8.8	↑
小売業		▲11.9	3.8	13.0	0.0	▲1.8	↓	3.5	↑
サービス業		7.1	15.3	15.0	6.7	7.9	↑	5.0	↓
建設業		3.0	3.1	9.9	0.0	▲1.1	↓	2.2	↑

# 総 合

当期のD Iは、業況+5.2（前期比▲2.3ポイント）、売上+6.6（同▲0.4ポイント）、収益+1.5（同▲0.9ポイント）と、全てのD Iで前期比低下している。来期は、全てのD Iにおいて当期比改善が見込まれている。

業種別にみると、製造業のうち、自動車部品関連については、熊本地震の影響等から停止していた分の挽回生産がみられた。卸売業のうち、木材卸については、住宅建設等のニーズは相応にみられるものの、全体的に荷動きは盛り上がり欠ける状況が続いている。小売業全体については、依然として消費者の節約志向が残るものの、夏のボーナス支給や円高に伴う一部商品の値下げもあり、売上は比較的安定をしている。サービス業のうち、飲食業については、知名度や企業体力のある先が新規出店を進めており、消費者の節約志向が根強い中、売上確保のため、独自の特徴やサービスを提供することで差別化を図る動きがみられている。建設業全体については、人材確保が課題となっている先が多い。また、下請企業においては、受注単価が依然として低く、収益面が厳しい先もみられる。



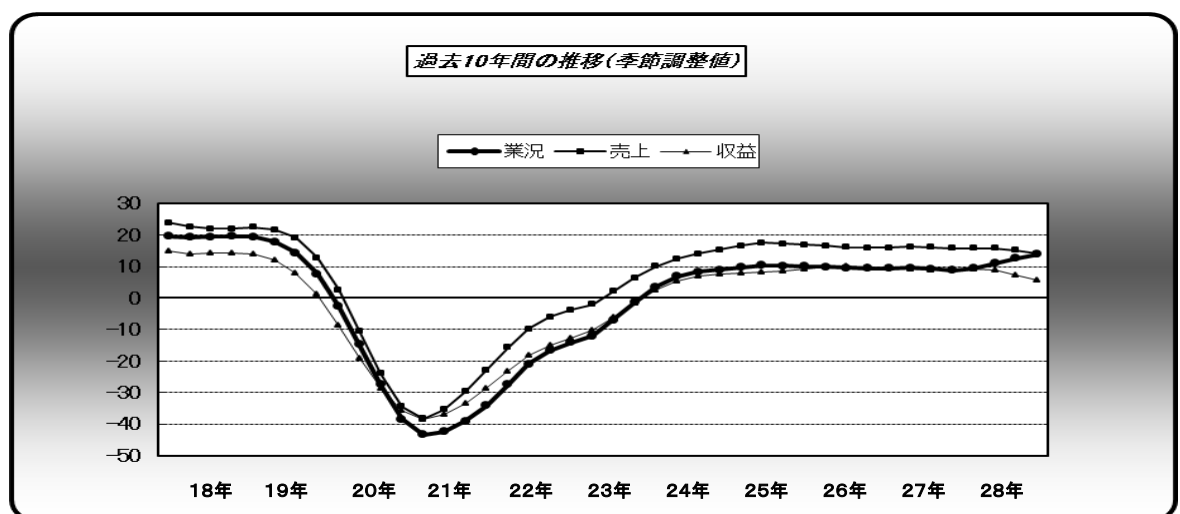
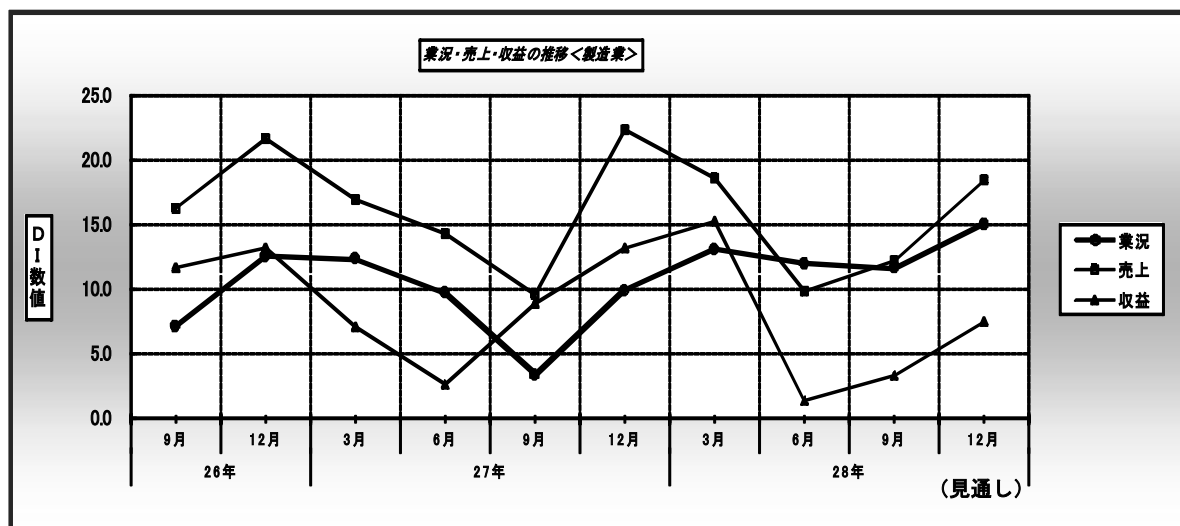
# 製造業

当期のD Iは、業況+11.6（前期比▲0.4ポイント）、売上+12.2（同+2.3ポイント）、収益+3.4（同+2.0ポイント）と、前期比では売上D I、収益D Iが改善しているほか、業況D Iは若干低下したものの2桁のプラスを維持している。来期は、当期比で全てのD Iにおいて改善が見込まれている。

自動車部品関連については、熊本地震の影響等から停止していた分の挽回生産がみられた。年末にかけて忙しい時期を迎えるが、円高の進行、人件費の増加等から地元下請企業の収益面では厳しい状況が続いている。

電気機器関連については、大型設備投資に伴う受注も一部動き出しており、年末にかけて生産設備の更新・増設に伴う受注増加が見込まれている。

菓子製造関連については、需要の多い冬季を迎えるなか、為替や台風の影響に伴う原材料価格の変動を懸念する先もみられている。

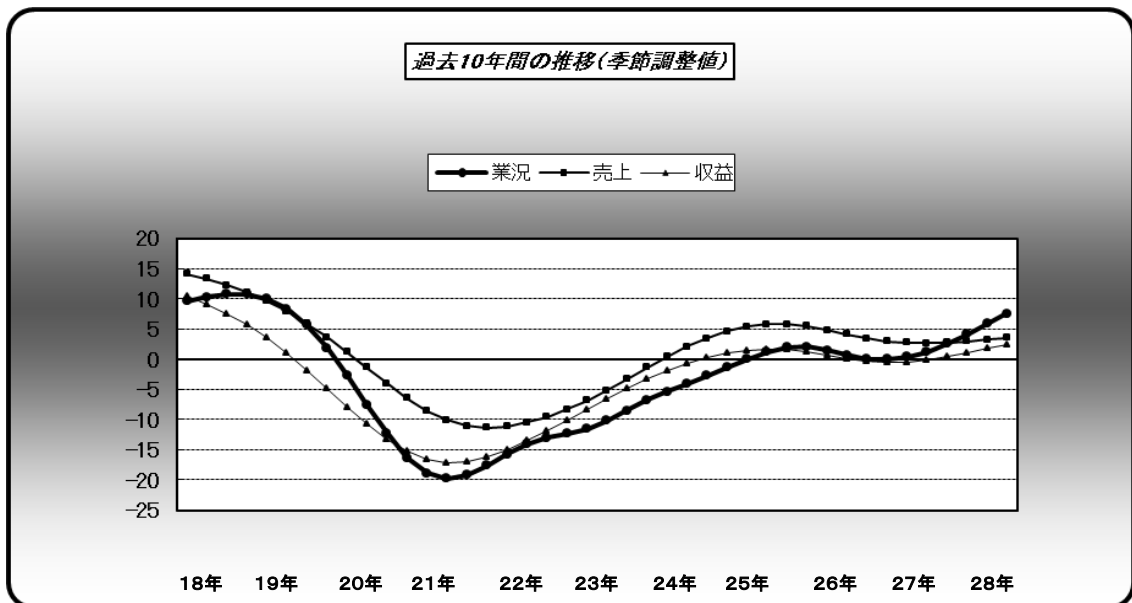
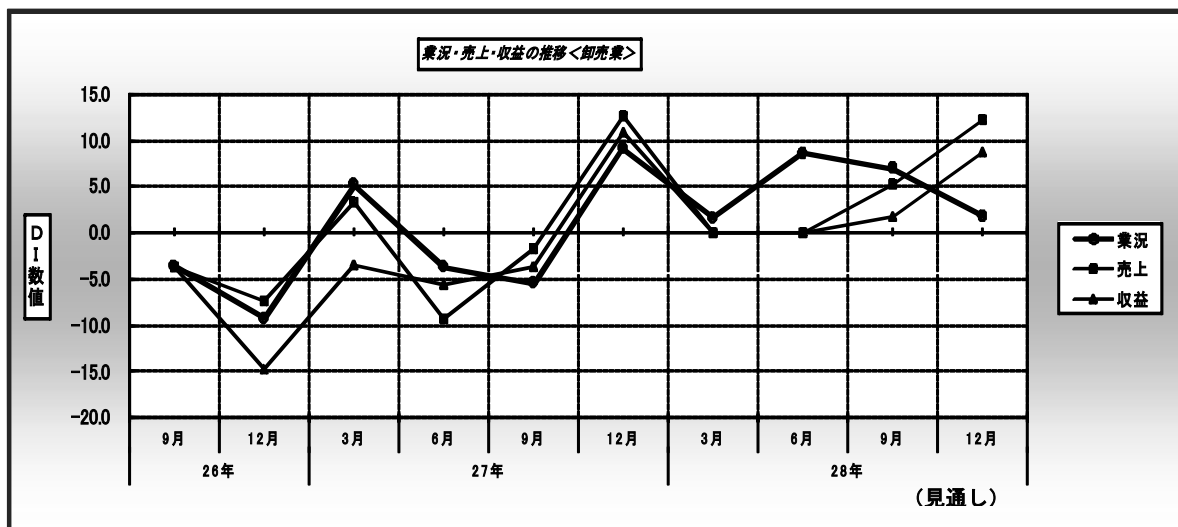


# 卸売業

当期のD Iは、業況+7.0（前期比▲1.6ポイント）、売上+5.3（同+5.3ポイント）、収益+1.8（同+1.8ポイント）と前期比では業況D Iが低下する一方、売上D I、収益D Iは改善している。来期も同様に、当期比で業況D Iが低下する一方、売上D I、収益D Iは改善することが見込まれている。

青果卸については、夏キャベツの出荷量、価格は概ね平年並みで推移している。当地区の主要青果物である冬キャベツは、例年通り11月頃から出荷される予定であるが、今夏は比較的天候に恵まれ順調な生育状況にあることから、販売価格の低迷が懸念されている。

木材卸については、住宅建設等のニーズは相応にみられるものの、全体的に荷動きは盛り上がり欠ける状況が続いている。国産材の価格は比較的安定しているものの、円高に伴い輸入材の価格は低下している。



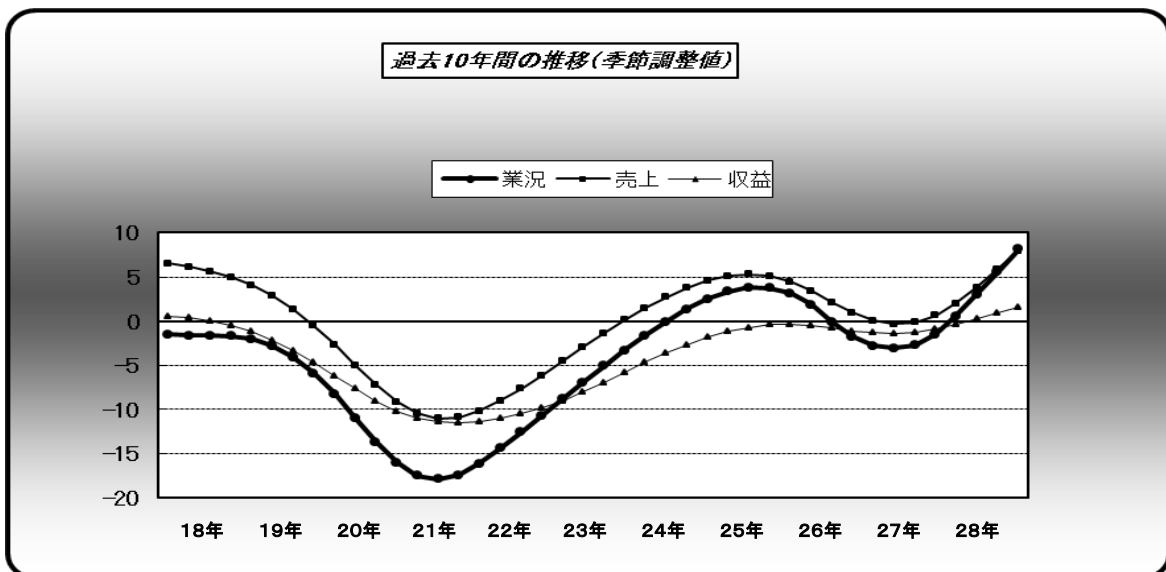
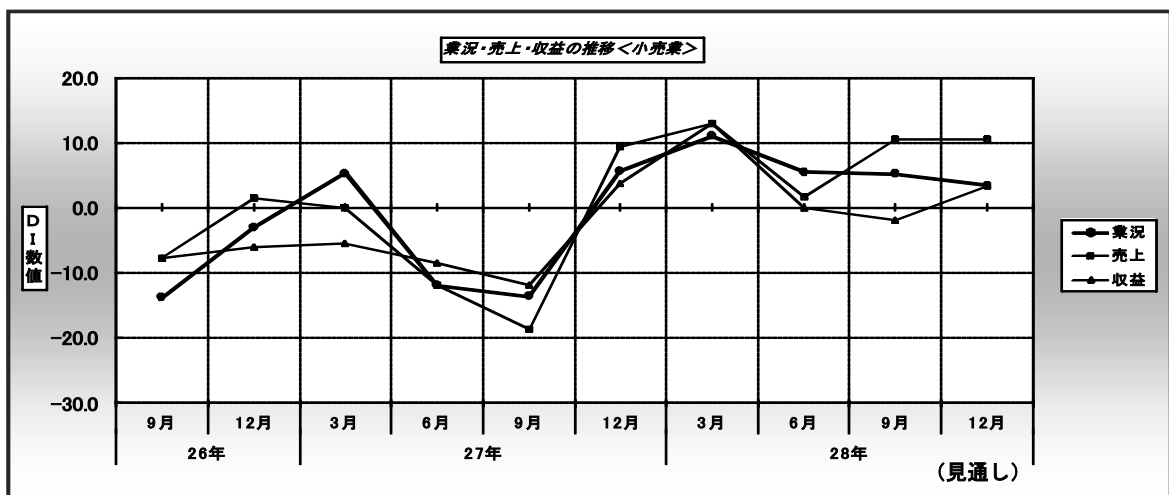
# 小売業

当期のD Iは、業況+5.3（前期比▲0.2ポイント）、売上+10.5（同+8.7ポイント）、収益▲1.8（同▲1.8ポイント）と、前期比では売上D Iが改善の一方、業況D I、収益D Iは低下している。来期は、当期比で業況D Iが低下の一方、収益D Iは改善が見込まれている。

小売業全体については、依然として消費者の節約志向が残るものの、夏のボーナス支給や円高に伴う一部商品の値下げもあり、売上は比較的安定をしている。しかし、大手量販店と競合している小規模業者の業況は依然として厳しい。

自動車販売については、燃費不正問題等の影響から一部軽自動車の販売は減少が続いている。一方、中古車販売では、若年層の買替需要から活発な動きがみられるほか、輸入車販売では、ステータスを求める層の旺盛な需要から販売台数は堅調に推移している。

石油小売業については、夏の行楽シーズンは天候要因もあり、売上増加となった。もともと、エコカーの普及やセルフスタンドとの競合等から採算面は引続き厳しい。

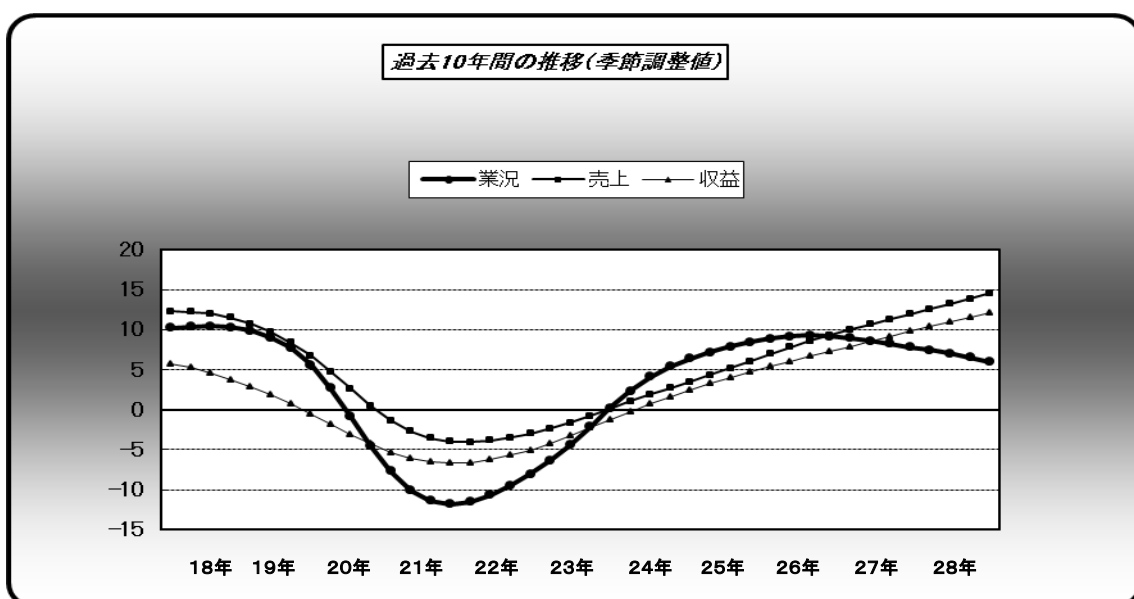
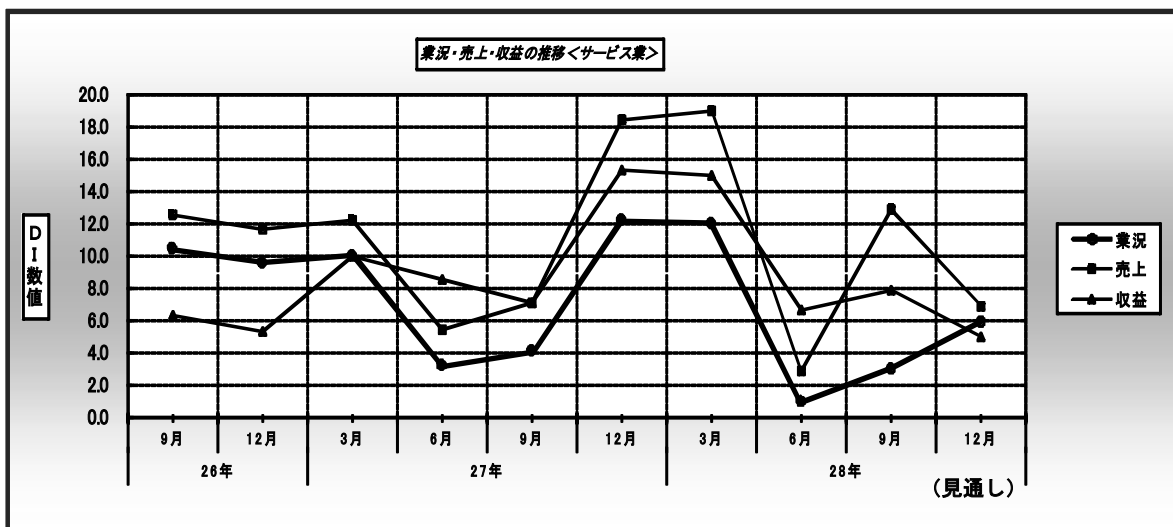


# サービス業

当期のD Iは、業況+3.0（前期比+2.0ポイント）、売上+12.9（同+10.0ポイント）、収益+7.9（同+1.2ポイント）と全てのD Iで前期比改善している。来期は、当期比で業況D Iが改善する一方、売上D I、収益D Iは低下が見込まれている。

ホテル・旅館業については、中国などの海外観光客、夏休みシーズンの家族連れや学生等の国内観光客ともに増加がみられた。今後も中国からの団体客の予約等が入っているものの、人員確保が難しくなっている一部の先では予約を断るケースもみられている。

飲食業については、知名度や企業体力のある先が新規出店を進めており、消費者の節約志向が根強い中、売上確保のため、独自の特徴やサービスを提供することで差別化を図る動きがみられている。





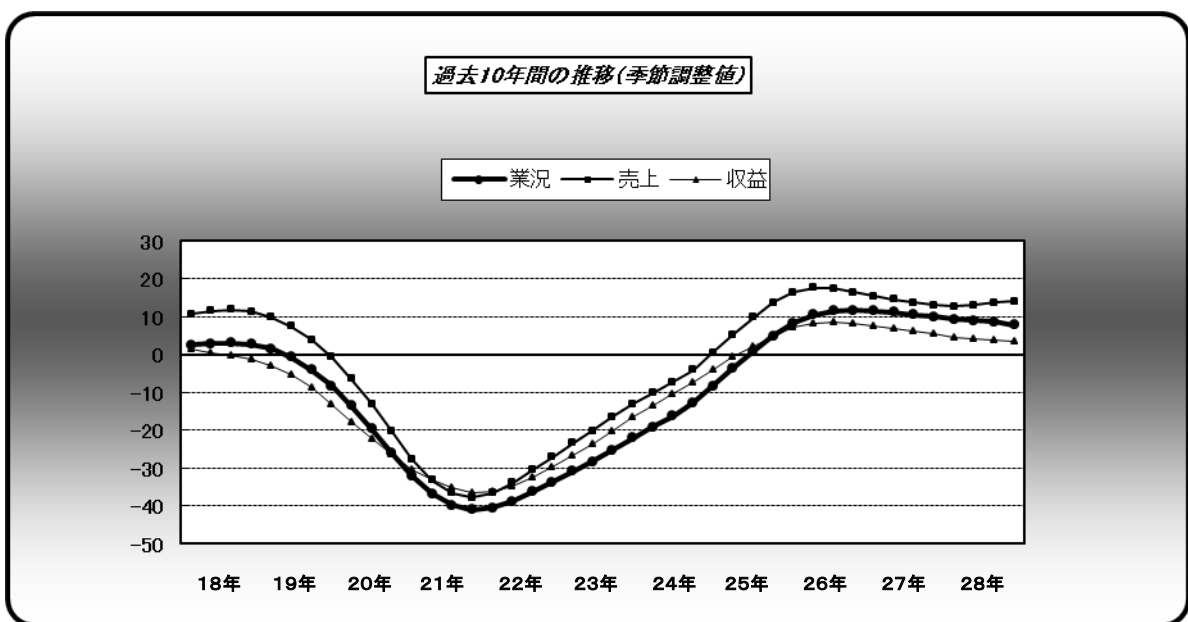
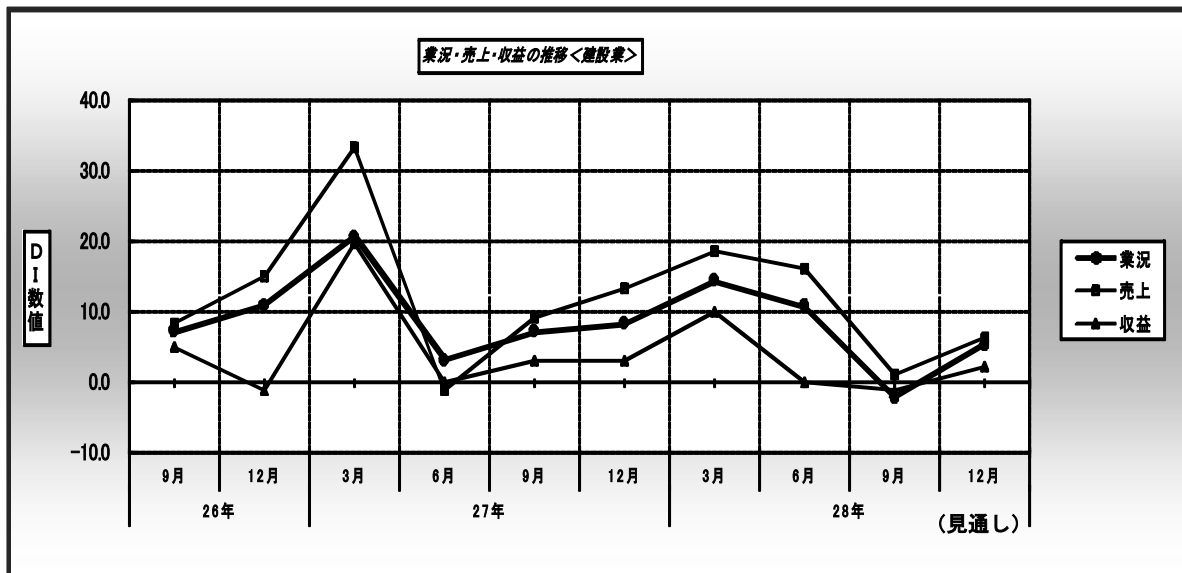
# 建設業

当期のD Iは、業況▲2.2（前期比▲13.0ポイント）、売上+1.1（同▲15.0ポイント）、収益▲1.1（同▲1.1ポイント）と全てのD Iが前期比低下、特に業況D I、売上D Iは大幅に低下している。来期は、当期比で全てのD Iで改善が見込まれている。

建設業全体については、人材確保が課題となっている先が多い。また、下請企業においては、受注単価が依然として低く、収益面が厳しい先もみられる。

公共工事については、引き続き道路整備関連の県や市の入札等もあり、前年並みの受注量は概ね確保されている。

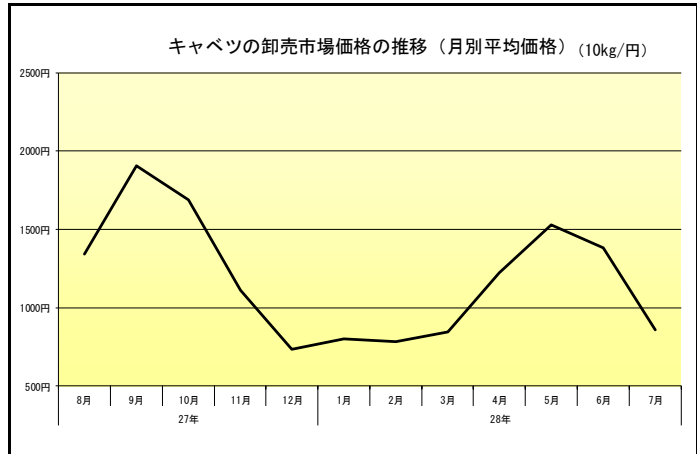
民間工事については、住宅建築は地域差はみられるものの、地震に伴う耐震工事や区画整理に伴う移転建替、保留地の分譲等もあり、受注増加が期待されている。



## 農業

### 野菜

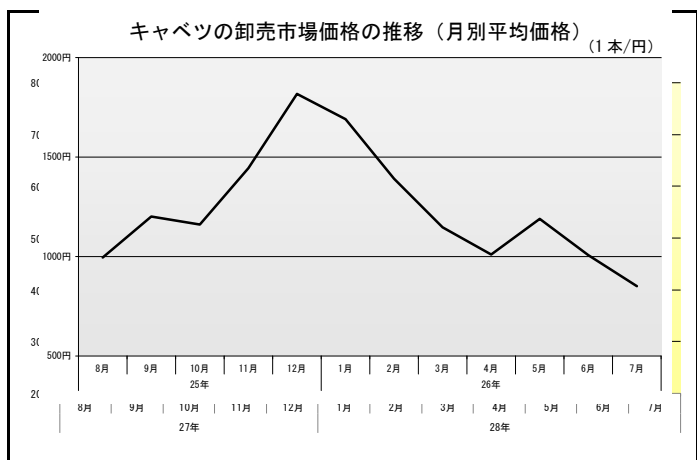
露地野菜のキャベツは、8月下旬から冬キャベツの植え付け時期となっており、今夏は比較的天候にも恵まれたことから生育は順調である。例年同様11月頃から本格的な出荷時期を迎えるが、販売価格の低迷が懸念されている。



※名古屋中央卸売市場の卸売価格を参考

### 菊

菊については、7～9月は例年需要が多く、また、抑制栽培の経費負担もほとんどないことから、年間を通じて業況が好転する時期である。需要は10～11月に減少の後、12月から年初にかけては増加するが、暖房や電照によるコストの増加から採算面は厳しくなると見込まれている。



※（社）日本花き卸売市場協会の調査価格を参考

## 水産業

シラスうなぎの漁獲量は、近年の保護活動等により最盛期には及ばないものの、回復傾向にあるが、価格は高値が続いている。

シラス（イワシ類）の漁獲量は、不漁であった昨年同時期を上回り例年並みに回復してきており、今後も安定した推移が見込まれている。

## 運輸業

運輸業については、概ね前年並みの輸送量が確保されている。また、ドライバー不足の深刻さは改善されておらず、こうした状況が当面続くとみられている。

## 不動産業

マイナス金利導入に伴う金融機関の住宅ローン金利引下げについては周知されており、建売住宅等について消費者からの問い合わせは引続きみられているものの、これまでのところ新規の住宅需要が盛り上がるまでには至っていない。